

# 慈光

発行：平成18年11月20日

醍醐山厭傾院徳勝寺

香川県さぬき市寒川町石田東甲618

## 子どもたちといじめ

子どもたちが学校の中でいじめにあって自殺するというニュースがテレビで毎日流れています。もしかすると、皆さんのご家庭でも心配なさっておられるかもしれません。

いま学校などで発生しているいじめは、決して弱いものがいじめられるばかりではありません。たんに少し違っているから仲間から外そうとしているだけのことなのです。ですから、もしいじめられていても、弱いか

## ご案内

今回お迎えする上山大峻先生は、住職の兄弟子に当たり、先年なくなつた武邑尚邦和上の筆頭のお弟子になります。住職も後任も大変お世話になっております。

上山先生の一歩のご業績は中国の敦煌仏教の研究であり、現在も世界の中で最も著名な先生であります。龍谷大学の学長をお辞めになつてからは、本願寺派の教学伝道研究センターの所長として、現代の問題と仏教の橋渡しを研究し続けておられます。

お忙しい日程の中をやり繰りしてお出で願っておりますので、是非ともこの機会にお参りになつて、爽やかなお話に接していただきますようご案内申し上げます。

徳勝寺会計からお願い

12月は、後期の維持費を集めさせていただきます。ご協力をよろしく願います。後期維持費は5千円でございます。

遠隔地の方は同封の郵便振替をお使いください。また、事務の手違いで、全納の方にも振替用紙が入っていることもございます。ご容赦ください。

浄土真宗本願寺派 徳勝寺

〒769-2321

香川県さぬき市寒川町石田東甲618

電話 0879 (43) 2023

Fax 0879 (23) 2008

e-Mail booze@daigo.or.jp

HP www.daigo.or.jp

SNS daigosan.so-netsns.jp

## 郷土で活躍した文人展

徳勝寺所蔵の郷土ゆかりの文人たちの「屏風・掛け軸・色紙など」を出展いたします。いづれも徳勝寺に古くから伝わるものばかりですので、ぜひご覧ください。

場所 21世紀館さんかわ  
(さぬき市寒川支所南)  
電話 0879 (43) 0780

会期 11月21～26日  
(午前9時～午後5時)

入場料 無料

共催 さぬき市教育委員会  
徳勝寺前任職 筑後俊孝

後援 さぬき市文化財保護委員会

らではないことが多いのです。むしろ、強すぎたり、勉強が過ぎたり、真面目だったりする子どもがいじめられることも多いのです。仲間たちとの、ほんの少しの違いがいじめの原因になってしまっています。

むしろ、いじめる子どもたちの方が、さまざまな問題を抱えていたり、弱いからグループを作っていることが良くあります。いじめをおこす子どもたちには、心配ごとやつらいことなど、持ちきれない悩みを持っていることが多いのです。ですから、いじめられている子の方が哀しい思いをしていることが多いのです。

ご家庭でも、子どもたちを注意深く観察して、いじめられていないか、いじめてはいないか、気をつけてあげてください。

そして、どんな場合でも、家族が必ず子どもたちの味方なのだということを教えてあげてください。さらに、その家族を、どんなときにも見守ってくださることを教えることが大切です。

もしお困りのことがあれば、徳勝寺にご相談ください。相談内容は厳守いたします。

## 越後時代 (新潟)

流罪地は雪深い新潟でした。僧籍も剥奪されている親鸞聖人は、住むところにも、食べることに事も事欠く毎日が続いたと思われまます。

みずから選んで苦勞するのでなく、そのような状況に追い込まれていったのです。私たちの生活は、みずからの責任ではないのに、望んでいない境遇に追い込まれることがあります。この時の親鸞聖人は、まさにそんな状況であったのです。

## 関東時代

流罪を赦されてからも、親鸞聖人は京都へ帰ることなく、関東でお念仏の輪を広げました。

現在とは違い、ほとんど人も住んでいない閑散とした土地で、そこには飢饉や災害に喘いでいる人たちが待っていました。その人たちの悩みや悲しみを懇切に聞いて、ご自身も同じ苦しみを味わっていかれたのが、親鸞聖人でありました。私たちの苦しみを、親鸞聖人も知っていてくださるのです。

## ふたたび京都へ

60歳を過ぎてから、親鸞聖人はご一家で関東を離れられました。しかし、ご家族と一緒に暮らせることはなく、奥さまの患信尼さまは新潟へ、親鸞聖人は京都いた弟さんのお寺に…とバラバラになってしまいました。お歳をとってから頼るべき家族が傍にいない人生は、おそらく寂しいものだったでしょう。

このような数々の悩みや哀しみのなかで、親鸞聖人は阿弥陀さまのご本願のはたらきを、たくさんのご著作として執筆活動に専念されておられました。その最中に、御聖人の代わり

に関東に派遣されていた長男・善鸞さまが間違った教えを語ったことで義絶されます。もっとも頼りにしていた長男を失って、親鸞さまは80歳を越してさらに哀しい思いをされることになるのです。

以上のように、親鸞聖人の一生は哀しくつらい人生であったはずですが、

しかし、最期に書かれたお書物を読ませていただくと、どのようなつらく哀しい毎日であっても、その哀しみのすべてを知っていてくださる阿弥陀さまがいてくださることを、大変にお喜びになっておられます。

私たちも、哀しくつらい毎日を送っています。しかし、私のすべてを知っておられる阿弥陀さまが、いつでもどんなときでも呼びかけてくださっているのです。そのお声に励まされて、毎日を送らせていただきますように。

# 親鸞聖人のご苦勞

親鸞聖人は、わたしたちが毎日悩んだり・苦しんだり・哀しんでいることを、ご自身もその身をもって味わってられました。そして、そのような哀しい人生の中にあっても、阿弥陀如来だけはわたしの心を知っていてくれる、とお喜びになったのが、親鸞聖人でした。独りではないよ、いつもわたしがそばにいるよ、と呼んでいてくださるのが、阿弥陀さまなのだと、今も私たちに教えてくださいます。



## お生まれ (京都)

親鸞聖人は、お生まれの時からご苦勞の多い人生でした。お父さまは、前の皇后の大進というお仕事でしたので、すぐに政治の世界のめめに巻き込まれてしまったようです。その後のお父さまの様子は歴史の上には出てきませんが、お亡くなりになったのか、どこかに遁されたのだかと思われています。もちろん、お母さまや兄弟がどのようなようになったのか、ほ

とんど伝わっておりません。

そのような状態でしたので、叔父さまのご縁で、僧侶になることになったのでした。その時、御年9歳であったと伝えられています。もし、今、子どもたちが9歳で父も母もわからずに、家族バラバラになったとしたらどうでしょう。

親鸞聖人は、そのような哀しい想いのなかでお育ちになったのでした。

## ご修行時代 (京都)

僧侶になるお得度は、青蓮院の慈円和尚から受けました。その後、比叡山にお入りになり、20年にわたって厳しいご修行をお続けになったのでした。

比叡山では、常行三昧堂の堂僧としてご修行をされたようです。これは、お堂の扉をすべりて閉じて、蟬燭の明かりだけを頼りに、90日間不眠不休でお念仏を称えながら歩き続けるという厳しい修行をされました。しかし、このような過酷な修行でも、親鸞さまの求めるものは得られなかったため、ついに比叡山を下りられたのでした。

## 横川時代 (京都)

比叡山を下りた親鸞聖人は、大津の横川におられた法然上人のもとに行かれ、比叡山のすべての修行を捨て、阿弥陀さまのお念仏に、すべてを任せられたのでした。

この法然上人の教えは、比叡山の教えとは著しく異なっていました。そのため、小さな事件を発端として、法然上人のグループは解体され、多くのお弟子が死罪となり、法然上人も親鸞聖人も流罪になりました。信じている教えが否定されることの苦しみはどのようなものでしょう。今でもそのようなことはありませんが、江戸時代の鹿兒島では、お念仏を称えることが禁止されていたのです。今で言うところ、思想弾圧ということにもなるのでしょう。